



(株)群馬清風園
木暮 一広

代表取締役役に就任し一年半が経過しました。

1987年に東京農業大学造園学科を卒業後、すぐに自社に入社し、当時バブル経済の真っ只中で主流工事はゴルフ場造成現場で次から次へと5現場受け持ち、現場代理人として岩手、福島、秋田と東北を中心に日夜現場作業に追われる日々でした。30歳になった頃、営業に配属されバブル崩壊後の不景気な中工事受注に苦慮した思い出があります。

先代の父が2013年1月に他界し、ほぼ同時期にそれまで父が担当していた群造協活動を引き継ぎ、初めて出席した中毛支部会議で、いきなり理事に推挙され大変重圧を感じました。

今後も当協会の発展の為に誠心誠意、邁進する所存でございますので宜しくお願い申し上げます。

がんばれ後継者!!

皆様こんにちは。創業66年、地元で盛んに行われていた苗木の生産販売、私の祖父もそんな地域の方々と一緒に始めたのが造園業の出発点です。

私は大学卒業後、造園会社に就職し13年前に自分の会社へ戻ってまいりました。現在は先代から事業を継承し公共工事・民間工事など造園に関わるあらゆる事を生業としております。そんな中で私が一番重視している事が技術力です。作品創りの楽しさや創った作品が後世まで残る喜び、完成した時の満足感は作品を創った人にしかわからないものでしょう。職人の高齢化、世代交代が進む中で技術をしっかりと新人へ継承して行かなければなりません。これからの未来を見据えて最新技術と伝統を融合させる事で魅力ある業種として若年層から高齢の方々まで多くの方々が活躍できる、そんな環境創りも積極的に行っていきたいと考えています。



(株)群馬緑営
大澤 成樹

Title

他所を見る

Memo

造園会社・団体の性質は職人です！そこには日本文化が根付き、職人のプライドがあり、自分の仕事が一番で他の職人の剪定方法・技術・センスを認めない者もいます。一方、反対に他の職人の仕事をよく見て、理解し自身を高め続ける者もいます。

職人には個性があり、仕事を頼む人はその個性を買って庭の手入れや作庭をしてもらおうと自分よく庭を楽しめます。

そんな偉そうなことを書いた理由を、お伝えします。「他人の仕事や環境を見ないといけない！」と自分自身が実感した出来事です。10月に群馬の有志数名で中国視察をしました、杭州と上海を周り群馬県上海事務所の方にお世話になりながらの旅です。まず道路植栽が綺麗です、剪定技術は高くありませんが草がほとんど生えてません！道中でのどかに除草作業して

町の庭師の手帳より

いるおばちゃんを見かけましたが国土が広く植栽も多いし急いでもしょうがないって気にもなるなーと感じ、気持ちの余裕も丁寧な仕事に繋がるように思えました。

仕立物の植木は花摘みや実をとって生産管理をしていました。

とかく中国のイメージは旅行者のマナーの悪さや現代文化の遅れを連想していませんか？私も思っていました。

しかしバスで1,000kmほどの移動で目にした造園は技術よりも丁寧な仕事をコツコツとすることや「美しい国日本」と言ってる日本よりも今は中国の方が綺麗なことを実感し、現代文化も進んでいます。日本の庭木を輸入し日本の街路を見て造園文化を勉強している中国は造園の職人文化が始まっています。改めて自分は「井の中の蛙」の職人でなかったか？

やはり庭師も職人！常に外をみてスキルアップが必要と感じた視察でした。

(群馬庚申園(株)・山口 雄資)